令和7年度 学校経営の改革方針

鈴鹿市立若松小学校

I めざす学校像

学校教育目標 『豊かな人間性と粘り強い実践力をもったこどもの育成』

- めざす学校像
- ・ こどもが楽しく安心して学べる学校 ㊦くわく 長期欠席対策
 - ・ 心身ともに健康で思いやりのあるこを育てる学校 ㊧がやき 非認知能力育成
 - ・ 授業を大切にし、確かな学力を育てる学校 ㊨なびあい 学力向上×ICT
 - ・ 家庭、地域とともに歩む学校 ㊩ながるこ 地域連携

めざすこども像 ~ ㊦くわく ㊧がやき ㊨なびあい ㊩ながるこ ~

II 現状と課題

1 学力向上の視点から「確かな学力の育成」について

昨年の全国学力・学習状況調査の平均正答率は、全国比で国語は2.7、算数は8.4ポイント低く、CD層の割合はそれぞれ13.8、18.2ポイント高かった。みえスタディ・チェックの結果も概ねよく似た傾向である。経年の国語の課題は「情報と情報の関係の理解」「書き表し方の工夫」などで、算数の課題は「目的の図形作成のための操作の見通し」「具体物や図に表して、式と関連付けて考察する力」などである。こどもの実態に応じた国語科の校内研修を通じ、自分の考えを意欲的に伝えようとする子どもは増えたが、仲間の考えを受け、さらに自分の考えを広げ深めようとする意欲は十分とは言えない。また、家庭学習や読書週間の未定着さ、やり抜く力(-10.7)の弱さを含め、校内研修の振り返りでは、九九を起因とする計算の不正確さが課題としてあげられるなど、SP表にも見られる学力の二極化と基礎基本の未定着が課題である。

2 長期欠席対策の視点から「安心して学べる学校」について

休み時間に担任や友だちと外で遊んだり、教室でにこやかに過ごしたりする児童は多い。一方で、ほっとルームや巡回すくすく、SLSによる登校支援、日本語指導の利用などの個別の支援を必要とする児童は少なくない(R6 10%、R7%)。日々変化する児童の状況と方針の効果的な共有が課題として残る。また、個別支援の必要な児童の見落としはないかの視点で、観察と情報共有を続け、保護者や関係機関と連携していくことが、長期欠席対策の未然防止としての課題である。

3 非認知能力育成の視点から「思いやりのあるこを育てる」について

些細ないきちがいによるトラブルが多く、積極的に行動できない様子が散見され、児童質問紙の結果から自己肯定感(-14.1)、社会性(-6.7)のいずれも低く、特に自己肯定感の低さは課題である。一方で、児童会活動や地域の「語り部」活動などでは主体的に活動する姿が見られた。児童会担当の児童が「自分で考えて行動して認めてもらえてうれしかった。自信になった。」と手紙を書いてきたように、児童が自分で活躍できたと実感できる活動場面をどのように設定してくか、活動や行事のねらいの設定が課題である。

4 地域連携の視点から「家庭、地域とともに歩む」について

若松地域づくり協議会や大黒屋光太夫顕彰会などの地域の団体と連携した取組を通して、児童の経験や知識、技術は高められてきた。地域の若松フェスタでは5年生は光太夫太鼓を、3年生は中学生と音楽発表を披露し6年生は司会を担当している。4年生は顕彰会と共に「若松の町を歩いて、光太夫や若松の歴史を学ぶ」をテーマに地域学習に取り組んでいる。これらの活動のねらいの確認と年間計画への位置づけが課題である。また、家庭との連携では、ボランティアへの協力、家庭での学習習慣の確立に向けた学校全体での機運の創造が課題である。

Ⅲ 重点目標と具体的な行動計画

[確かな学力の育成]

- ・ 児童アンケート「学校の勉強はよくわかりますか」95%(R6 93%)をめざす。
- ・ 「授業力 UP5☆ver.2」に基づく算数科の授業改善の推進（授業公開2回以上）
- ・ 大木中学校の個別最適な学びの研修と連携させた、複線型に入るまでの基礎基本の定着のための学習方法について実践を交流する。
- ・ 算数科のつまずきやすい単元の授業を参観し合い、授業実践の交流に取り組む。
- ・ 課題に対応したワークシートやデジタルドリル、県のCBTを活用するなど宿題を工夫する。
- ・ ICT活用の実践事例の校内共有を進め、力量を高める研修会へ参加し還流する。(数回/年)
- ・ 学校だよりやチェックシートを活用して学習習慣の確立に向けた機運創造に取り組む。

[安心して学べる学校]

- ・ 児童アンケート「困ったことがあると先生や友だちに話したり相談したりできますか」90%(R6 87%)
- ・ こどもとの温かい人間関係づくりや人権感覚の育成を図り、児童や保護者から信頼される学級経営に努め、長期欠席対策に取り組み不登校を生まない学校づくりをめざす。
- ・ 人権教育を基盤に集団づくりの力量を高め、道徳の時間の充実。(人権授業公開1回/年)
- ・ いじめ未然防止に向けた教職員研修の計画と、いじめ防止のための授業の実施(毎学期に1回)
- ・ 個別支援でエネルギーを蓄えた児童だけでなく、どの児童にとっても学級が「安心して学べる」居心地よい場となるよう日常的にSSTを取り入れる。また、不登校傾向児童などへの支援では、逆行連鎖の考え方で作業の最後を本人に取り組みさせるなどして達成感を持たせる。
- ・ 危機管理マニュアルに基づいた実効性のある避難訓練と安全教育の充実を図る。(3回/年)
- ・ 整理整頓・清掃の行き届いた安全で安心できる学びの教育環境づくりを推進する。

[思いやりのあるこを育てる]

- ・ 児童アンケート「友だちのことを考えて行動していますか」90%以上(R6 3年生83%)
- ・ 心身の健康のため、あいさつ、安全・安心、朝ごはんに重点を置き、継続して取り組む。
- ・ 豊かな感性、自己肯定感の醸成のため、発達段階に応じた体験活動とキャリア教育との連携促進を図り(各学年数回)、他者と関わる取組を積極的に計画する。
- ・ 読書の時間に「こどもの非認知能力を高めるための絵本」の読み聞かせを行う。

[家庭・地域とともに歩む]

- ・ 児童アンケート「地域の行事に参加していますか」95%以上(R6 93%)をめざす。
- ・ 若松の文化や暮らしに目をむけた地域学習に取り組み、郷土を愛する心を育成する。
- ・ 保護者・児童アンケート、学校関係者評価を実施し学校改善につなげる。(1回/年)
- ・ コミュニティスクールを積極的に運用し、保護者や地域との連携を強める。(6回/年)
- ・ 学校だよりの発行(月2回)やホームページの更新により積極的な情報発信に努める。
- ・ 千代崎中校区、大木中校区の学校園と連携した教育活動を進める。

[働き方改革について]

- ・ めざす学校像実現に向けて、教職員との対話を積極的にもち、自校のミッションを共有するとともに、今日的課題に組織的に取り組む。(個人面談3回/年)
- ・ 総労働時間縮減(学校内の連絡のデジタル化、学校と保護者との連絡のデジタル化など)に取り組み、健康でやりがいのある職場づくりをめざす。

【成果指標】・月45時間、年360時間を超える時間外労働者の延べ人数(0人)

・一人当たりの月平均時間外労働(18時間以下)

・一人当たり年間休暇(年休・特休)取得(23日以上)

【活動指標】・月2回設定した定時退校日に定時退校できた職員の割合80%をめざす

・放課後開催の会議を60分以内に終了する割合80%をめざす